

【p 96～ p 101】 わたしの雪彦山

1 資料活用にあたって

- 「雪彦山」が兵庫県のどのあたりにある山かについて、地図で示してから資料に入るとよい。
- 山の説明に深入りしないようにする。
- イラストを拡大して、場面絵として使う方法もある。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：あい子（子どもが「あい子」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：おじいちゃんの話（おじいちゃんが子どものころの自然豊かな雪彦山の話）
- 変化するところは：「わたしが大きくなっても、花も木もとりの動物もたくさんいる今のままの山にしたいな。」

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ 「永遠なる我がふるさと 守り伝えるべき、夢前の文化と誇り』夢前町閉町記念誌、2006年
- ・ 「夢前の自然」、夢前町教育委員会・夢前の自然調査研究委員会 編、2000年

【訪れたい場所】

- ・ 雪彦山
JR姫路駅から神姫バス51系統「山之内」行き乗車。終点山之内で下車約3.5km。

○ 雪彦山について

- ・ 雪彦山は、姫路市の北西夢前町にあり、弥彦山（新潟県）英彦山（福岡県）と共に「日本三彦山」として知られる修験道の地である。日本百景、ひょうごの森百選、兵庫50山、近畿100名山に選定されており、四季を通じて多くの登山者が訪れている。
- ・ 雪彦山には、オチフジ・アケボノツツジ・ミツマタなど珍しい植物が自生しており、登山者を楽しませている。また、鹿や狐、猿など多くの動物や鳥、昆虫が多く生息している自然豊かな山である。
- ・ 雪彦山は神の山として、地域の人々から崇められていた。山はかつて子どもたちにとっては、遊び場であり、大人にとっては、薪や落ち葉などの燃料や山の幸の供給源であった。しかし、電気やガス、灯油などが薪にとって代わり、生活スタイルが変わることにより、人々と山の関わりは薄れてしまっている。また、植林や地球温暖化、登山者が山野草を根こそぎ採ったり、ごみをしたりするなどのマナーの悪さから、自然破壊が進み、山崩れや、獣が田畑を荒らすなどさまざまな問題が出てきている。

4 展開の具体例

わたしの雪彦山

- ・主 題 名 ・自然をたいせつに D（19）
- ・資料の概要 ・あいつは祖父と雪彦山に登り、岩でごつごつした山と思っていたが美しい花が咲く山であることを知る。かわいい花に手をのばした時、祖父に注意されたあいつはとまどう。祖父の話を聞き、自然を守ることの大切さに気づいたあいつは、「自分たちがこの自然を守る担い手になろう」という思いをもって、祖父と一緒に山頂を見上げる。
- ・ね ら い ・おじいちゃんから雪彦山の自然の話を聞いて、（私が大きくなっても花も木も鳥も動物もたくさんいる今のままの山にしたいと）道徳的に変化する主人公を通して、自然のすばらしさに感動し、自然や動植物を大切にする道徳的实践意欲を育てる。

・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P97の写真（秋の雪彦山）の写真を見ましよう。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・花に手をのばしたことを注意され、小さな声で謝っている主人公の気持ちを考える。 ・大きくなっても今のままの山にしたいと言う主人公の気持ちを考える。 ・おじいちゃんと雪彦山のとっぺんをながめている主人公の気持ちを考える。	「ごめんなさい。」と謝りながら、あいつはどんなことを思ったのでしょうか。 ・知らなかったの。ごめんなさい。 ・かわいい花をおかあさんに見せたいだけなのに。 ・おじいちゃん、さみしそうだな。どうしてかな。 「わたしが大きくなっても、花も木も鳥も動物もたくさんいる今のままの山にしたいな。」と言いながら、あいつはどんなことを考えていたのでしょうか。 ・いつまでも自然いっぱいの雪彦山だったらいいな。 ・自然いっぱいの雪彦山を守っていこう。 おじいちゃんといっしょに山のとっぺんを見上げながら、あいつはどんなことを考えているのでしょうか。 ・私たちが自然を守らないといけないんだね。 ・おじいちゃん、さっきお花をとろうとして、ごめんね。
終 末	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましよう。

主人公は悪気なく、ただお母さんに見せようとして花に手をのばしたことをつかませる。

昔の雪彦山に関するおじいちゃんの話がきっかけとなり、自然が豊かな雪彦山の様子を思い浮かべた主人公が、自然や動植物を大切にすることを意識し始める。

自然や動植物を大切にすることを意識が高まり、主人公が「私たちが雪彦山の美しい自然を守ろう」という実践意欲を強めていることをおさえる。